種目（音楽）

発行者名 採択基準	教育出版（音楽のおくりもの）
1　教科の目標からの配慮	・　各教材ページに「学習目標」を端的に示し、その学びを基盤に、他の教材と比較したり、より確かな知識や技能を身に付けたりするページを設け、音楽表現の幅が広がるよう工夫されている。 ・　音楽をかたちづくっている要素を窓口とした学習が「学びのユニット」にバランスよく示されており、音楽の見方・考え方を働かせながら学習できるよう配慮されている。 ・　比較演奏や比較鑑賞を多く取り入れ、生徒が音楽の多様性に触れながら音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいくことができるよう工夫されている。
2　生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 （本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等）	(1)　学年の発達段階に応じた学習内容が配置され、「学びのユニット」に既習内容とのつながりや他の題材とのつながりを示すことで、生徒が見通しをもちながら取り組めるよう工夫されている。 (2)　比較することで生徒が楽曲の特徴を捉え、キャラクターの言葉やワークシートをもとに学習の手順や観点を確認しながら学習することで理解が深まるよう展開が工夫されている。 (3)　比較する活動を通して生徒自らが音楽の共通性や固有性を考え、対話しながら音楽への理解を深められるよう工夫されている。 (4)　鑑賞では、多様な音楽が配置され、聴き比べ、ワークシートへの記入、体験的・対話的な活動を通して、音楽のよさを味わうことができるよう工夫されている。 (5)　生徒の学習意欲を喚起し、情景や心情を思い浮かべられるような写真やメッセージが巻頭に掲載され、巻末には楽典や楽器が折り込みで印刷され、多様な情報を見渡せるよう配慮されている。
3　学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い （「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価）	(1)　小学校からの接続を意識し、学習が無理なく系統的に進められるように親しみやすい教材曲や題材が配列されている。 (2)　「ACTIVE！」のページを学習することで、対話的・協働的に学べるよう工夫されている。 (3)　鑑賞では、異なる作曲家が同じ歌詞を用いた楽曲を比較鑑賞する活動等を示し、多様な学習ができるよう工夫されている。 (4)　「世界や日本の音楽」では楽器や楽曲が詳しく解説されており、生徒が興味をもって無理なく学習できるよう工夫されている。 (5)　歌唱共通教材では、歌詞の情景を写した鮮明な写真を掲載し、生徒の意欲を引き出し、情景を思い浮かべて表現できるよう工夫されている。 (6)　比較鑑賞の記録、学習内容等を教科書に書き込めるようになっており、学習の振り返りができるよう工夫されている。
4　全体的な特色	・　既習内容や他の題材とのつながりを示すことで、生徒が見通しをもちながら学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・　音楽の共通性や固有性、音楽の特徴や多様性への理解が深まるよう、比較するページが多く設けられており、対話的・協働的な学習が行われるよう工夫されている。

種目（音楽）

発行者名 採択基準	教育芸術社（中学生の音楽）
1　教科の目標からの配慮	・　各教材ページに「何を学ぶか」を示す「学習目標」、学習目標に迫るための活動内容が提示され、生徒が創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を学ぶ道筋が明確に示されている。 ・　目次や各教材ページに、その題材で主となる音楽を形づくっている要素を示すことで、それを窓口に音楽の見方・考え方を働かせながら学習できるよう配慮されている。 ・　音や音楽が生活や文化とどのように関わり、どのような意味や価値をもっているかについて生徒が考える資料を充実させ、音楽に関する感性が豊かになるよう工夫されている。
2　生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 （本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等）	(1)　学年の発達段階に応じた学習内容が配置され、「学びの地図」にその教材でどのような力がつくのかを示すことにより、生徒が見通しをもって学習することができるよう配慮されている。 (2)　作者のメッセージやコラムで生徒が楽曲へのイメージをもち、「深めよう！音楽」に示された活動の手順や、鑑賞の観点に沿って学習することで理解が深まるよう展開が工夫されている。 (3)　豊富な資料、吹き出しなどにより生徒が学習の流れを見通し、対話しながら深い学びができるよう配慮されている。 (4)　鑑賞では、多様な音楽が配置され、写真や説明で理解を深め、聴き比べる活動や体験する活動を通して、実感を伴いながら音楽のよさを味わうことができるよう工夫されている。 (5)　情景や心情を思い浮かべることができるような写真や資料が多く掲載され、学習目標、活動文、音楽を形づくっている要素が一目で分かるようにレイアウトされている。
3　学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い （「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価）	(1)　学習問題を軸に系統的な学びを意識した題材配列がなされており、精選された教材が収録されている。 (2)　「深めよう！音楽」のページを手順に沿って学習を進めることで、対話的・協働的に学習を深められるよう工夫されている。 (3)　鑑賞で、指揮をする、伝統的な歌唱を謡う等、体験的な活動を取り入れることで実感を伴う学びができるよう工夫されている。 (4)　創作では、図形楽譜を取り入れたり活動の手順を丁寧に示したりして、生徒が無理なく学習に取り組めるよう配慮されている。 (5)　多様な音楽活動の写真により、幅広い音楽の価値観を学ぶことができ、キャラクターの吹き出しは、生徒の言語活動や協働的な学びの手助けとなるよう工夫されている。 (6)　楽曲から知覚・感受したことや学習内容を教科書に書き込むことができ、学習の振り返りができるよう工夫されている。
4　全体的な特色	・　その教材でどのような力がつくのかが示されており、生徒が見通しをもって学習することができるよう工夫されている。 ・　生活や社会における音楽の役割についてのページや，我が国や郷土の伝統音楽についてのページが充実しており，音楽文化と主体的に関わっていく態度を養うことができるよう工夫されている。

種目（音楽）

発行者名 採択基準	教育出版（音楽のおくりもの　器楽）
1　教科の目標からの配慮	・　「学びのねらい」を設定し、音楽を形づくっている要素を窓口としながら表現に必要な技能を学習できるよう工夫されている。 ・　技能の習得だけでなく、いろいろな楽器の特徴を理解したり比較したりするページがあり、器楽を窓口に幅広い学びができるよう工夫されている。 ・　導入では、音楽家の言葉や写真を用いて興味・関心を高め、音楽表現のおもしろさを感じさせるよう工夫されている。
2　生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 （本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等）	(1)　基礎的な奏法から徐々に難易度の高い曲に移行し、生徒の技能に応じた学習ができるよう配慮されている。 (2)　難易度が同程度の曲、聴き慣れた曲を配置するなどして、生徒が意欲的に学習できるよう配慮されている。 (3)「何が同じで、何がちがう」「話し合おう」「音のスケッチ」等のコーナーやアイコンが示されており、比較する活動を通して生徒が協働的に活動できるよう配慮されている。 (4)　様々な楽器を使ってのアンサンブルや創作活動、和楽器を用いてのポピュラーソングの演奏等、多様な音楽活動ができるよう工夫されている。 (5)　運指表やコード表が折り込みで掲載されており、生徒が参考にしながら学習活動に取り組めるよう工夫されている。
3　学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い （「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価）	(1)　教科書前半で基礎的・基本的な事項を学習し、後半の「Let’s Try！」で、学びを生かしてのアンサンブルの学習や発展的な学習に取組めるよう工夫されている。 (2)　教材曲が幅広いジャンルの中から精選されており、生徒が無理なく多様な音楽に親しめるよう工夫されている。 (3)「弾く楽器の仲間たち」など、日本や世界の楽器の特徴について比較する発展的な内容を扱うページがあり、学習したことをさらに深められるよう工夫されている。 (4)　リコーダーでは、学習するページに必要な運指の図が掲載されており、楽譜と運指を交互に確かめながら学習することができるよう工夫されている。 (5)　ギターのコード表は写真入りで分かりやすく示されており、和楽器は伝統的な縦譜と横譜（五線譜）の両方が示され、学習活動に応じて利用できるよう工夫されている。 (6)　各題材の最後にある「まとめの曲」において、学習のポイントを評価の観点として自己評価しながら演奏し、学習のまとめをすることができるよう工夫されている
4　全体的な特色	・　演奏時の手元・口元の拡大写真を余白を生かして配置する等、生徒にとって分かりやすくなるよう配慮されている。 ・　器楽の学習を創作や鑑賞の学習と関連付けたり、日本と世界の楽器とを比較したりできる構成になっており、生徒の対話的な学びや深い学びを促すよう工夫されている。

種目（音楽）

発行者名 採択基準	教育芸術社（中学生の器楽）
1　教科の目標からの配慮	・　各楽器の演奏準備、奏法が詳細に示され、音楽表現をするために必要な技能を段階的に身に付けられるよう配慮されている。 ・　器楽分野の学習だけでなく、楽器を使っての創作分野の題材も配列し、楽器での表現のおもしろさに着眼し、創意工夫を生かした表現ができるよう構成されている。 ・　楽器の奏法、種類、編成、鑑賞曲等が多面的に紹介されており、音楽に関する興味・関心を高められるよう工夫されている。
2　生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 （本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等）	(1)　楽器の基礎的奏法が詳細に取り上げられ、中学生の発達段階に応じて学習ができるよう曲の配置が工夫されている。 (2)　生徒が初めて取り組む楽器においても、小学校での学びを生かして無理なく取り組むことができるよう配慮されている。 (3)　「演奏のポイント」「Q&A」等に具体的な練習の方法や学習の手順、表現のヒント等が示されており、言語活動を充実させながら主体的に活動できるよう配慮されている。 (4)　各楽器の参考曲が提示されていたり、創作の学習が設定されていたりして、鑑賞と表現を一体化させながら多様な音楽活動ができるよう工夫されている。 (5)　各楽器の特徴や奏法が鮮明な写真や図で説明されており、生徒がイメージをもちながら取り組めるよう工夫されている。
3　学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い （「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価）	(1)　どの楽器も持ち方、姿勢、チューニング等基礎的な事項を丁寧に扱った上で、徐々に教材曲の難易度を上げる教材配列がされており、無理なく系統的に学ぶことができるよう工夫されている。 (2)　各楽器の導入ページにその楽器の鑑賞曲が掲載されており、学んだことを器楽表現に生かせるよう工夫されている。 (3)　各楽器の基本を易しい楽曲で学んだ後、「アンサンブルセミナー」で発展的内容を扱い、学びを生かして対話的に表現を深めることができるよう工夫されている。 (4)　リコーダーでは、全ての曲にアルトリコーダーとソプラノリコーダーの楽譜が並列して示され、個々に合った楽器を使って弾力的に学習できるよう配慮されている。 (5)　ギターのコード表はコントラストが鮮明で、打楽器の奏法の写真は体の使い方や音の出る方向が矢印で示される等、視覚的に分かりやすくなるよう工夫されている。 (6)　学習問題や「演奏のポイント」「練習のポイント」等が具体的に書かれており、生徒が自己評価をしながら学習を進めることができるよう工夫されている。
4　全体的な特色	・　音楽を形づくっている要素を窓口とした学習を軸として、歌唱や創作・鑑賞での学びが生かされるよう構成されている。 ・　演奏家の写真やメッセージに加え、楽器の演奏場面を掲載し、生徒が楽器に興味をもったり生活や社会における音楽の役割を意識したりしながら学習できるよう工夫されている。